

1.適用範囲 この規格は、主として建築物の床に使用するビニル系床材、リノリウム系床材、ゴム系床材、オレフィン系床材などの高分子系張り床材(以下床材という)の試験方法について規定する。

17.滑り性試験

17.1 一般事項 この箇条では、床材の滑り抵抗係数を試験によって求め、床材の滑りにくさを試験する方法を規定する。

17.2 測定機器 この試験に用いる測定機器は、次による。

a) 滑り試験機 図11 a) に例示するもので、次の要件を満たすものとする。

1) 17.2 b) に規定する滑り片を底面に取り付ける鋼製滑り片台座をもつ。図11 b) に、滑り片及び鋼製滑り片台座の詳細図を示す。

2) 固定した試験片上で鋼製滑り片台座に取り付けた滑り片を、次の条件で滑らす機構をもつ。

2.1) 滑り片と試験片との接触面の大きさ及び形状は、70×80mmの長方形。

2.2) 滑り片に載荷する鉛直力(W)は、785N。

2.3) 滑り片に作用させる引張力の方向は、斜め上方18°。

2.4) 滑り片に作用させる引張力の速度は、785N/s。

3) 滑り片に2.2)の鉛直力を載荷後、直ちに2.3)の方向に引っ張り始める機構をもつ。

4) 滑り片を滑らすときの引張力(P)を測定する機構をもつ。

b) 滑り片 滑り片の材料は、次の中から選択する。

1) 硬さA72~A80、厚さ3~6mmのゴムシート。

2) 硬さA29~A35、厚さ7~10mmのゴムシート。

3) その他: 実際に使用している靴底など。

なお、硬さは、JIS K 6253-3 に規定するデュロメータ硬さ試験(タイプAデュロメータ)による。

17.3 試験室の温度及び湿度 この試験は、温度23±2℃、湿度40~70%の試験室で行う。

ただし、受渡当事者間の協定による温度及び湿度がある場合は、その温度及び湿度で行う。

17.4 試験手順 試験手順は、次による。

a) 滑り片の調査及び校正板

17.2 b) 1) に規定するゴムシートを滑り片として選択した場合、新しい滑り片として使うとき及び最初の測定を行うときは、**附属書JA**に基づき滑り片の調整を行う。

なお、滑り片の調整を行う際の校正板は、ステンレス鋼板又はコンポジションビニル床タイルとする。

b) 試験片表面状態の選択 試験片の表面状態を、次の中から選択する。

1) 清掃・乾燥状態 試験片表面を清潔な布でふいた状態。

2) ダスト散布状態 試験片表面に JIS Z 8901 に規定する試験用粉体1の7種を10g/m²の割合で散布した状態。

3) 水+ダスト散布状態 水道水と JIS Z 8901 に規定する試験用粉体1の1種及び7種とを質量比で、20:9:1に混合したものを400g/m²の割合で散布した状態。

4) 油散布状態 食用油を40g/m²の割合で散布した状態。

5) その他 受渡当事者間の協定による。

c) 滑り試験の手順 滑り試験機を用い、17.4 a) で選択した表面状態の試験片上で滑り片を引っ張るとき引張力(P)を測定し、滑り片が滑り始めるときに発生する最大値を最大引張力(P_{max})とする。

なお、エンボス加工品などで、試験片の方向で表面の凹凸形状に明らかな差がある場合は、それぞれの方向で測定を行う。

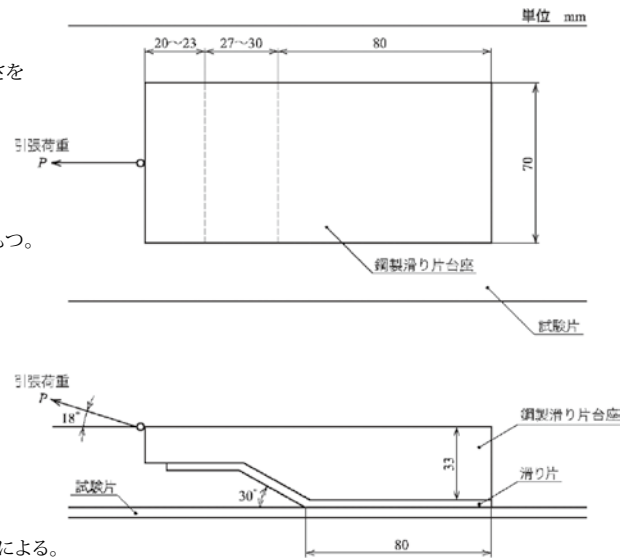
17.5 試験結果の計算及び試験結果の報告

17.5.1 試験結果の計算 滑り抵抗係数(C.S.R)は、式(5)によって計算する。 $C.S.R = \frac{P_{max}}{W}$ (5)

ここに、C.S.R: 滑り抵抗係数
P_{max}: 最大引張力(N)
W: 鉛直力(=785N)

17.5.2 試験結果の報告 滑り性試験の結果は、四捨五入によって小数点第2位に丸めて記載する。

なお、結果には、滑り片の種類及び試験片の表面状態を記載する。また、試験片の方向で表面の凹凸形状に明らかな差がある場合、試験片の方向を明記する。



b) 滑り片及び鋼製滑り片台座の詳細図

図11-滑り試験機(続き)